

男女共同参画社会づくりに関する意識調査（少子・高齢社会編）

～性別役割分担に関わる箇所の抜粋～

平成12年3月

金沢市市民生活部男女共同参画室

## 目 次

I. 全体調査の概要	1
II. 調査結果のまとめ	2
III. 調査結果 ～性別役割分担に関わる箇所の抜粋～	
1 子どもを預けて外出する場合、誰に頼むか<問11より>	4
育児支援体制と少子化の関係について<問12より>	6
安心して子どもを生み育てるための行政施策<問13より>	8
子育ての負担軽減のために家庭や地域に求められるもの<問15より>	9
家庭での高齢者介護の負担を軽くするために必要なこと<問17より>	10
高齢期について不安に思うこと<問20より>	11
望ましい高齢期の生き方<問22より>	12
現在、育児、介護をしているか<問23より>	13
育児休業、介護休業制度を利用するか<問25より>	14
10年前に比べ家庭を重視する男性の割合は増えたか<問27より>	15



# 男女共同参画社会づくりに関する意識調査（少子・高齢社会編） 結果報告書に表れた性別役割分担意識のまとめ

この冊子は、男女共同参画社会づくりに関する意識調査（少子・高齢社会編）の結果報告書から、男女共同参画社会づくりを阻害している「男は仕事、女は家庭」などの性別役割分担意識が顕著に表れた箇所を抜粋するとともに、新たな分析を加えて、市民の方々への意識のきりかえの一助とするために作成したものです。

## 1. 全体調査の概要

### 1. 調査の目的

男女が意思決定の段階から協力できる男女共同参画社会の実現には、なお多くの課題が残されている。金沢市では、家庭、職場、地域における金沢市民の生活の実態や意識を明らかにし、男女共同参画社会を目指すための基礎資料とすることを目的として、平成8年度から継続的に意識調査を行ってきた。第4回目となる今回の調査では、少子・高齢社会における男女の意識を明らかにすることを目的として、少子・高齢化、介護などの個別テーマの他、男女共同参画社会全般に対する設問を設定している。

### 2. 調査の設計

#### (1) 調査対象

金沢市内に居住する満20歳以上の男女各 1,500人を無作為に抽出し、5歳刻みの各年齢層の人口により比例配分した。

#### (2) 調査方法：発送返送ともに郵送

#### (3) 調査時期：平成11年8月

#### (4) 指 導：金沢大学 名古屋功（法学部教授）

八重澤美知子（留学生センター教授）

中野節子（文学部助教授）

### 3. 回収結果

対象者 3,000人のうち、回収数は 1,743票（送達不能者18人を除く回収率58.5%）、そのうち、29票が性別不明、17票が白紙の無効票であり、有効回答数は 1,697票、送達不能者を除く有効回答率は56.9%であった。

## II. 調査結果のまとめ

若い世代にとっては負担が増加する高齢化社会、一方、これから高齢化を迎える層にとって、少子化と年金の不安定性が切実な問題となっているのであろう。前の2回と比べて回答者の増加が見られる。このことから、今回の調査における人々の関心の高さがうかがわれる。

今回のアンケートで特徴的に指摘できることを3つに分けてあげておこう。

1つは少子化・高齢化社会の現状と将来像について、2つには、男女の意識の差異について、そして、3つには50歳代で意識変化が特徴的になされている点である。

まず、第1点目について。

少子化については、子どもの数が金沢では2～3人がもっとも多く、それほどの深刻さは見られない。ただし、理想の子どもの数は若い世代ほど少なく、少子化は確実に進行するであろうことを物語っている（問9）。一旦結婚すると、望む子どもの数は増えるという調査結果も出ているが、以前の意識調査のように、結婚そのものに、疑問を持つ若い層では、果たして、この結果が少子化を食い止める牽引力になるとは限らない。全国の平均とは遅れても、同様の趨勢をとるであろう。ただ、ここで指摘しておかねばならないことは、（問5）に見られるように、共働き家族の方に子どもの数が多いことで（2～3人）、よく女性が働くようになって子どもの数が減ったという見解を見事に反証している。高齢化は確実に進行しているが、高齢化については、その捉え方に二つの面がある。一つは負担が多くなるとする、いわゆる消極型、一方では高齢者、女性の社会参加の増加を見る積極型がある。面白いのは、若い人ほど、高齢化社会の消極的な面を考えるのに対し、高齢者は逆に少なくなっている（問7）。高齢者の若い人には頼らないという意識が強くなったせいであろうか。高齢者への福祉が増税となるのは避けられないことであるし、若い人の危惧の大きな点はここにあるといえよう。ただし、直接的には（家族内など）高齢者が経済的に子どもに依存しないように考えて来始めている。例えば、子どもが1人だったら、女の子という考えは、現在の家のあり方、生活力の考えから高齢期の生活資金として、年金・保険を考えており子どもからの援助を考えているのはごく少数である（問21）。高齢者介護に関しては、男性は家庭中心、女性は家庭と社会双方に責任を求めている。いずれにしても、3世代型や従来見られた、家庭が介護の中心とする考えは減少している（問16）。男女の差は考えられることではあるが、一層、直接的な社会的介護の要望は高まるであろう

（問17）。介護保険制度の熟知度に関しては、相当に進んでおり、このことも、上記の点と関連するであろう（問18）。（問22）の望ましい高齢期の生き方に関して、「趣味を持ち勉強する」と、「気楽にのんびり暮らす」が2大トップであるが、「自分の能力を生かして仕事

を続ける」や「友人や地域の人と交流する」も大きく、うまくこれらが結び付けば、将来の「老人力」は社会的にも意義のあるものとなろう。

次に第2点に移ろう。男女の意識の差異についてである。例えば、(問14)、働く女性の育児支援で読み取るべきは、女性は働き続けることを中心に考え、男性は再雇用制度を考えており、ここからは女性が再雇用の現実的な不利なことを知ったうえで、働き続けることを望むのに対し、男性はそこまで、女性の気持ちを汲み取っていない。また、女性は「夫婦間の協力」を求めるのに対し、男性は「施設の充実」を挙げるのは、やはり、男性の育児参加への消極性を示すといえよう(問15)。男女の意識の差異とは少し異なるが、子どもを育てる意義について、男性や農村に「家」意識の強さが見られる(問8)。また、子ども1人のときの男女の選択について、金沢は他の都市と比べて、はるかに、男児を望む率が高い(問10)。

さて、第3点目であるが、(問13)では、現実はともかく、安心して子どもを生き育てることについて、「男性も女性と一緒に家事、育児に参加していくという意識啓発」、「保育所などの費用負担の軽減」などに50歳代での意識の変化が大きい。(問14)の「育児休業制度の拡充」、(問15)の「保健所などが中心となって育児サークル活動を支援する」、(問20)高齢期の不安で「年金や生活費」を挙げる場合も同様である。10年前に比べ、家庭を重視する男性の割合が増加している(問27)。典型的なのは、(問22)の高齢期の生き方で、「自分の能力を生かして仕事を続ける」、(問25)の「育児休業、介護休業を利用する」における50歳代の意識の大きさである。細かく見れば、女性の方が男性より先行して意識変化しているが、何れも、50歳代以下の変化と同調している。一般に家庭、社会・権利の認識の仕方が、50歳を境に変化しているといえよう。

以上3点の他に、気付いた点を挙げれば、育児支援体制に関して(問12)と(問13)に見られるが、実際に子育て期間の階層の意見(支援の希望)は重要であろう。育児施設での負担の軽減、減税、男性の参加、を回答の3本柱とすると、「受験戦争の緩和など、ゆとりある教育の推進」の回答の高さに注目すべきであろう。育児、介護休業制度の利用については、その要望は高いが、実現には、ひとえに社会的認知(勤務先の許可)にかかっているといえよう(問25)。少子・高齢化社会での親子の暮らし方(問26)では、同居、近所に住むが圧倒的で、私個人の意見としても、偏った世代の生活形態より、より人間的であると考えられる。今後希望する生活では(問28)、ゆとり、安らぎなど、社会の変革期、高度成長の停滞期における実情を反映しているといえよう。なお、面白いのは、この調査ではライフステージについて60歳以上を高齢期としているのに対し、70歳以上が高齢期と一般では捉えられており(問19)、現在の認識を改める必要があるだろう。

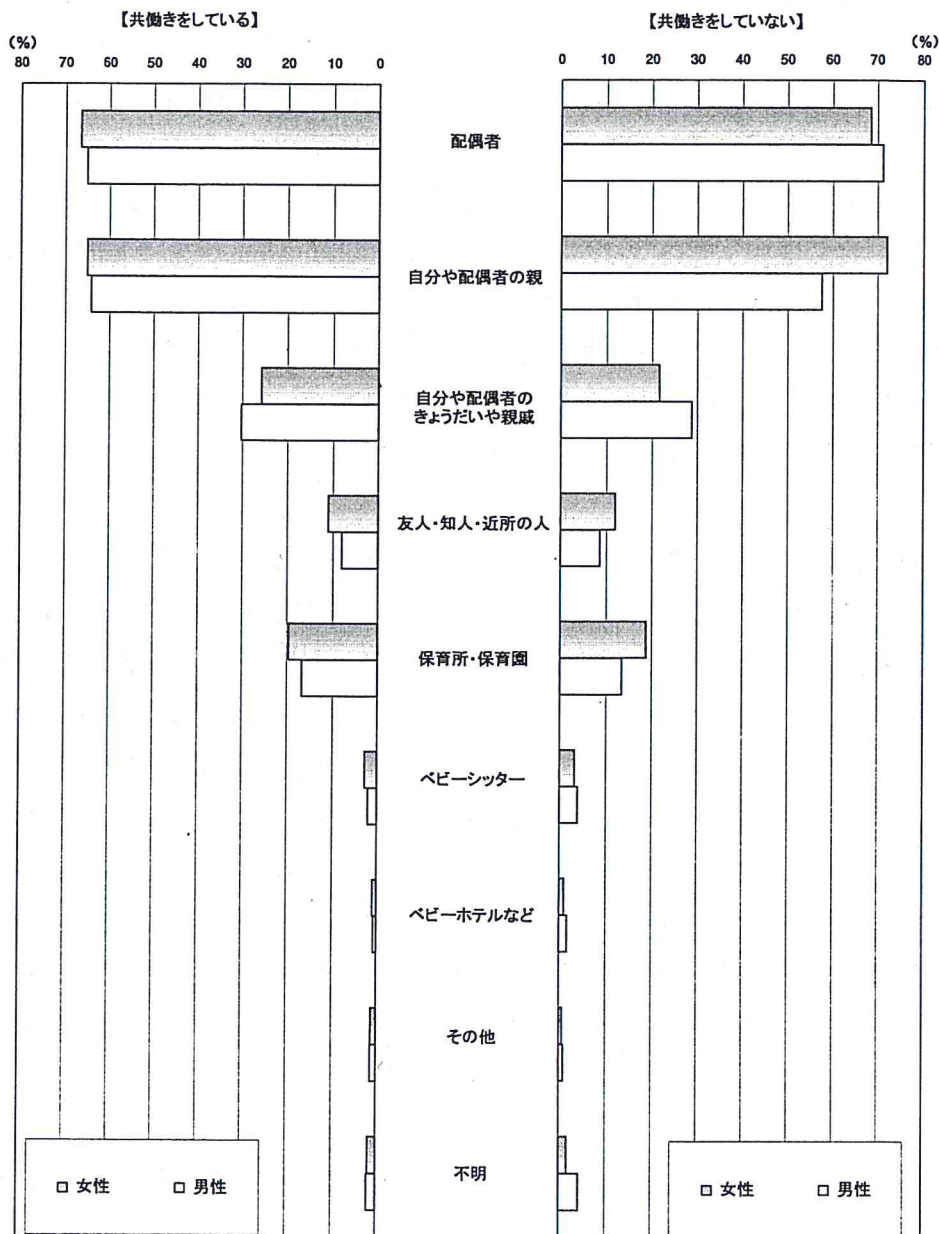
### Ⅲ. 調査結果

#### 1 日子どもを預けて外出する場合、誰に頼むか（複数回答）

問11 あなたの用事で1日子どもを預けて外出しなければならない場合、誰に頼みますか。次の中からいくつでも選んでください（子どもがいない方もお答えください）。

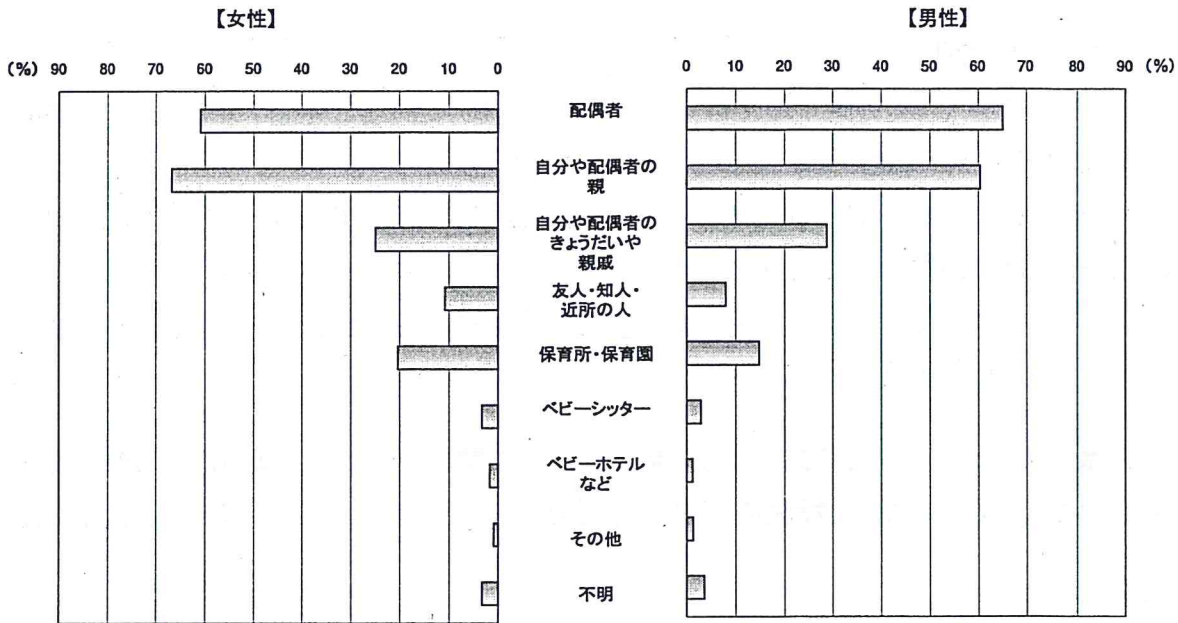
#### 就業形態別集計（共働きか否か）

- ・「共働きをしていない」男性と女性の意識には差異が見られるが、「共働きをしている」男性と女性では同じようなパターンがみられる。

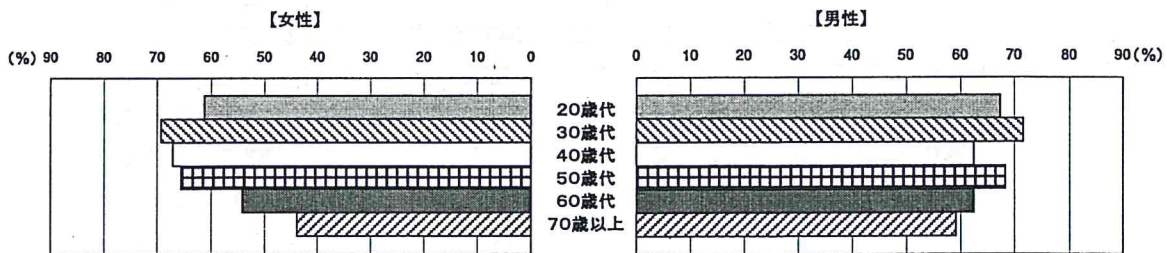


□ 男女・年代別集計

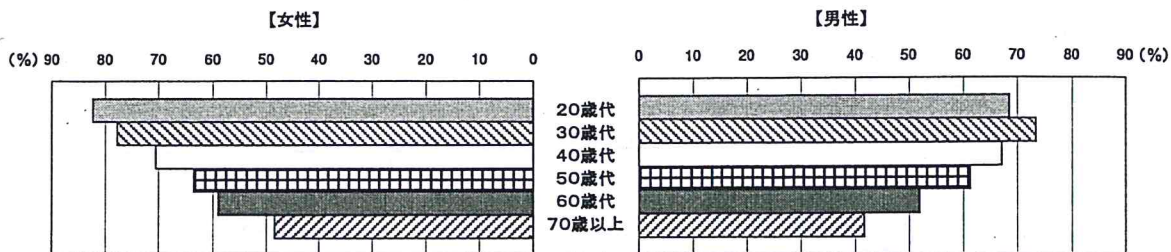
- ・ 女性は「配偶者」よりも「自分や配偶者の親」に頼み、男性は「配偶者」に頼む傾向が見られる。
- ・ 「20歳代」の女性では「配偶者」の割合よりも「自分や配偶者の親」の割合が約20ポイント以上上回っている。



「配偶者」について(男女・年代別集計)



「自分や配偶者の親」について(男女・年代別集計)



『配偶者に頼る男性、親に頼る女性という姿が浮き彫りになり、性別役割分担意識が認められる』

## 育児支援体制と少子化の関係について

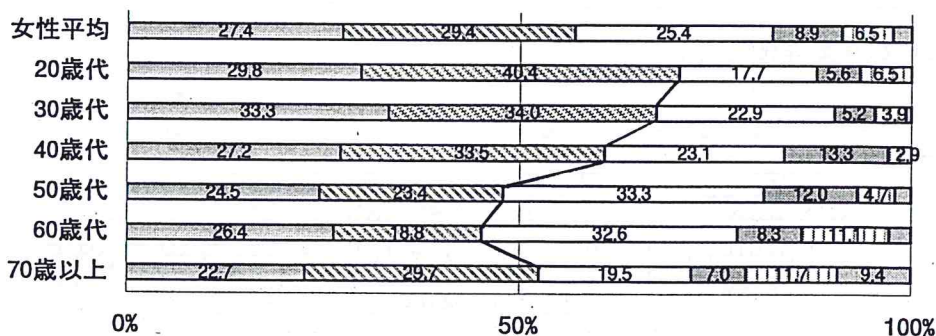
問12 現在、日本では一人の女性が生涯に産む子どもの数（合計特殊出生率）が 1.38 人（平成10年度「人口動態統計」厚生省調べ）と戦後最低になっています。女性の中には、育児に対する支援の体制が整っていないために、産みたくても産めない場合があるといわれていますが、あなたはどう思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

### 男女・年代別集計

- ・「そう思う」（「その通りだと思う」と「少しはそう思う」の合計）の割合は女性56.8%、男性52.5%と、女性の方がやや高くなっている。
- ・「そう思う」の割合は「20歳代」女性で70.2%、「20～30歳代」男性で65.2%であり、男女それぞれの平均を大きく上回っている。
- ・男女ともに年代が若いほど「そう思う」の割合が高くなっており、概ね年代が上がるごとにその割合は低くなる傾向がある。

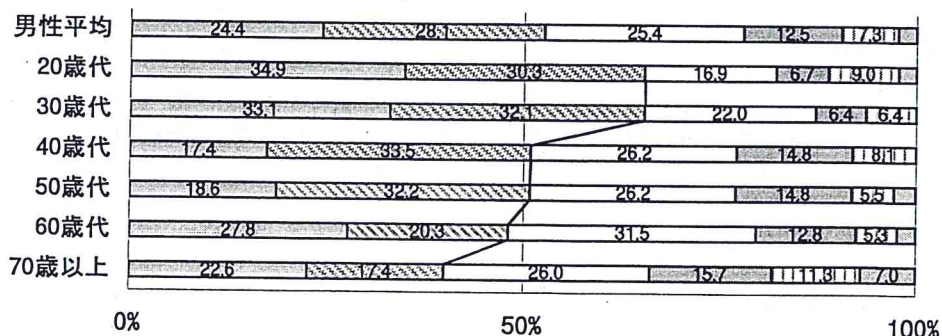
『実際に育児を担う女性の方が支援体制と少子化の関係を指摘する傾向にあるが、育児は女性のものであるという性別役割分担意識を男女とも持っていることが明らかになった』

#### 【女性】



□その通りだと思う □少しはそう思う □あまりそう思わない □全くそう思わない □わからない □不明

#### 【男性】

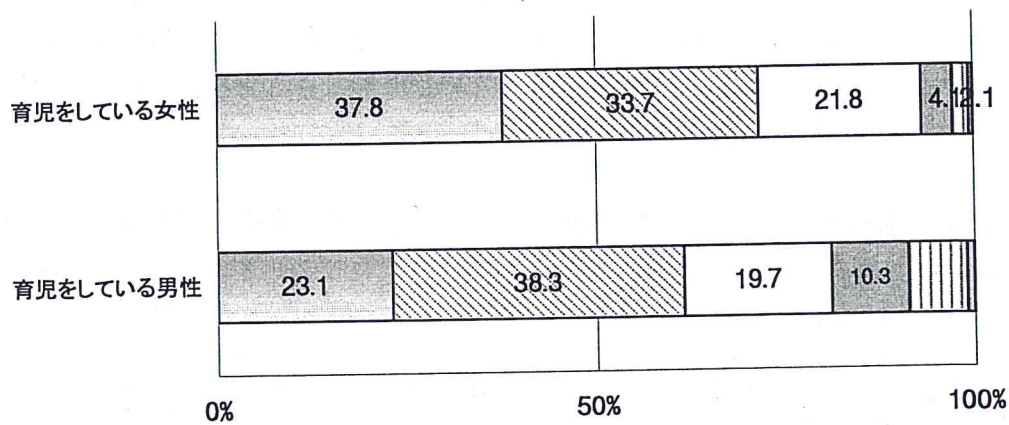


□その通りだと思う □少しはそう思う □あまりそう思わない □全くそう思わない □わからない □不明

育児状況別集計

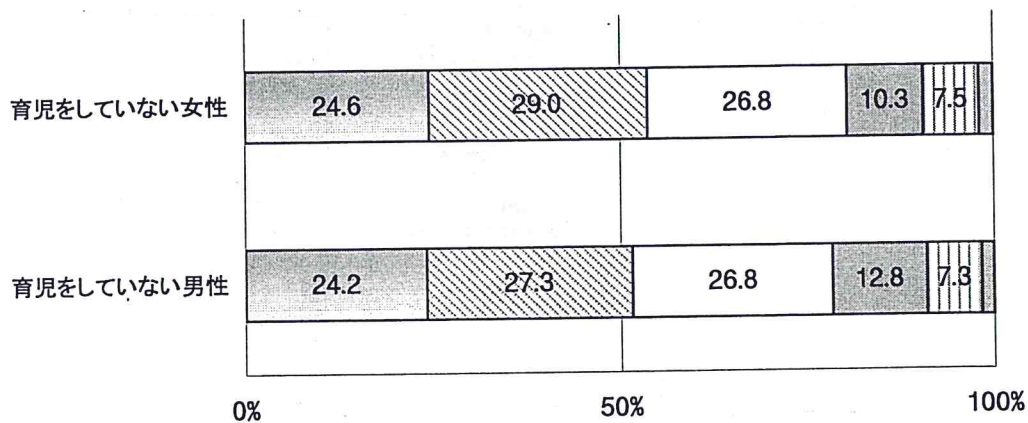
- ・「育児をしている」では、男女ともに「そう思う」の割合が「育児をしていない」よりも大きく上回っている。
- ・「育児をしている」女性の方が、男性よりも「そう思う」の割合が高くなっており、育児支援体制の不備をより感じているといえる。

【育児をしている】



その通りだと思う □少しはそう思う □あまりそう思わない □全くそう思わない □わからない □不明

【育児をしていない】



その通りだと思う □少しはそう思う □あまりそう思わない □全くそう思わない □わからない □不明

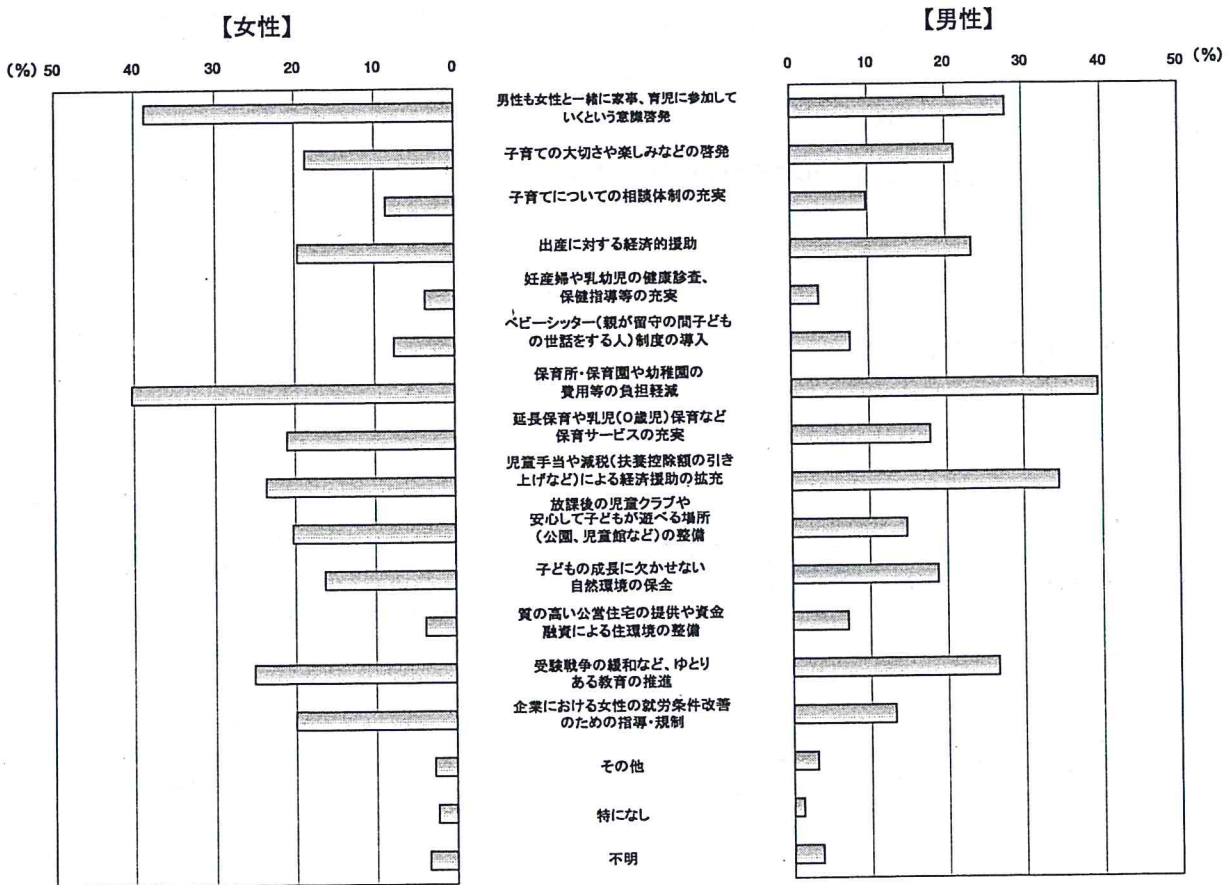
# 安心して子どもを産み育てるための行政施策 (3肢選択)

問13 安心して子どもを産み育てるため、行政にどのような政策を期待しますか。特に望むことを3つまで選んでください。

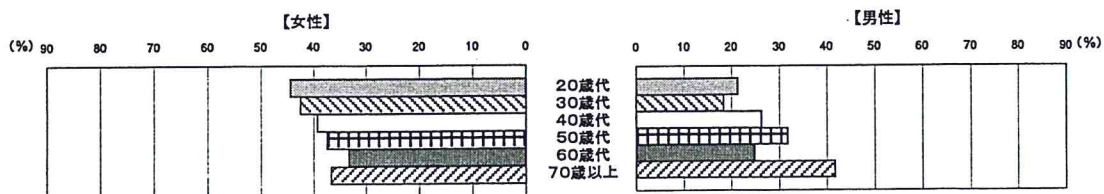
## 男女・年代別集計

- ・「男性も女性と一緒に家事、育児に参加していくという意識啓発」は女性の方が男性よりも10ポイント程度割合が高く、男女で意識の違いが見られる。
- ・実際に育児に関わる割合の高い「30歳代」男性で「男性も女性と一緒に家事、育児に参加していくという意識啓発」の割合が18.3%と2割を切っており、同年代の女性の42.5%と大きな差が生じている。

『特に男性の意識のきりかえが今後の課題であり、子育て、家事は男性と共に行うのが女性の望みといえる』



「男性も女性と一緒に家事、育児に参加していくという意識啓発」について(男女・年代別集計)



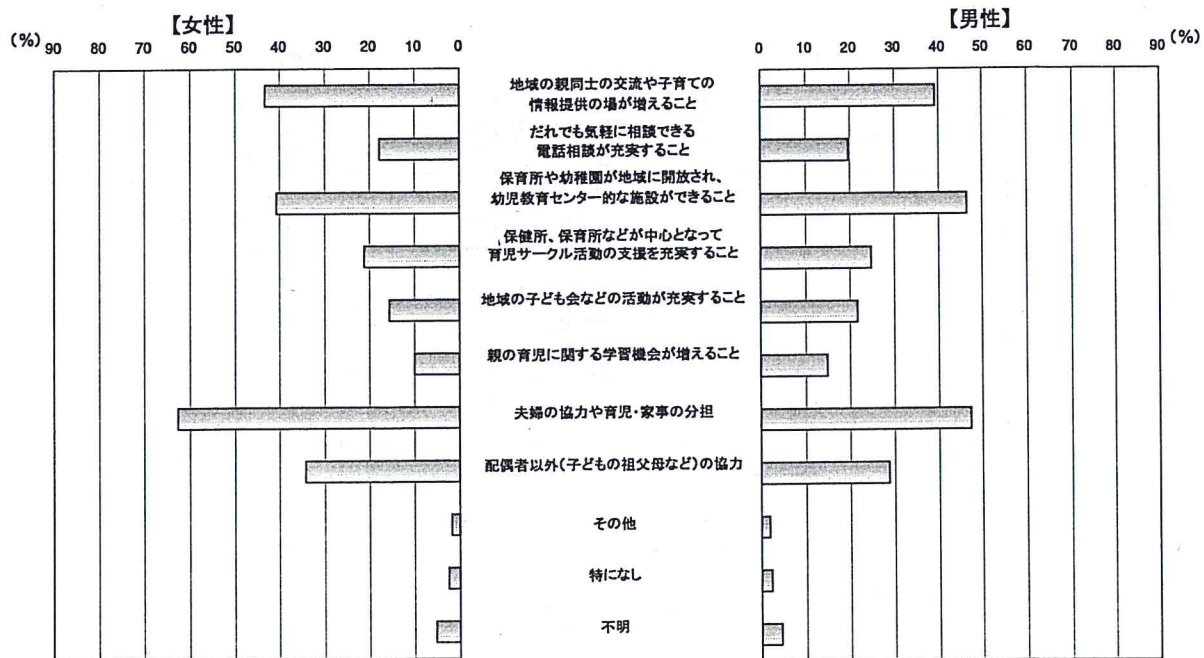
## 子育ての負担軽減のために家庭や地域に求められるもの（3肢選択）

問15 子育てにかかる負担の軽減のために地域や家庭に求められるものは何だと思いませんか。次の中から3つまで選んでください。

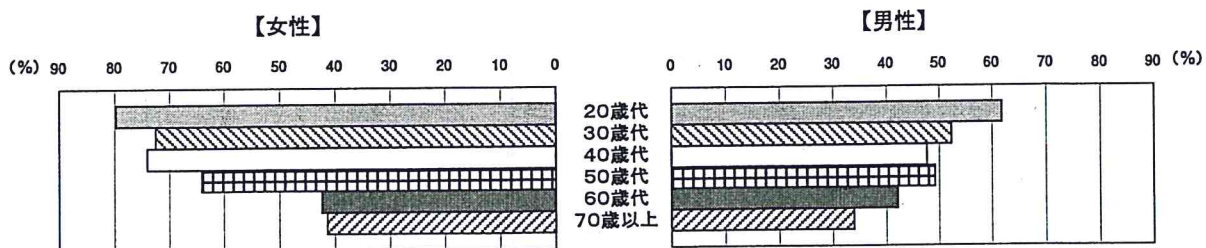
### 男女・年代別集計

- ・「夫婦の協力や育児・家事の分担」が男女ともに最も割合が高いが、その割合は女性は62.7%、男性は47.3%と、男女間で意識の差が生じている。
- ・「夫婦の協力や育児・家事の分担」は、男女とも特に「20～30歳代」の若い年代での要望が高くなっているが、男女とも「60～70歳代」では割合が落ち込む傾向が見られ、実際に子育てをしている年代ほど、夫婦間の協力を求めていることが読みとれる。

『女性は家庭内の協力体制を強く望んでおり、性別役割分担意識の解消が子育ての負担軽減に必要といえる』



「夫婦の協力や育児・家事の分担」について(男女・年代別集計)



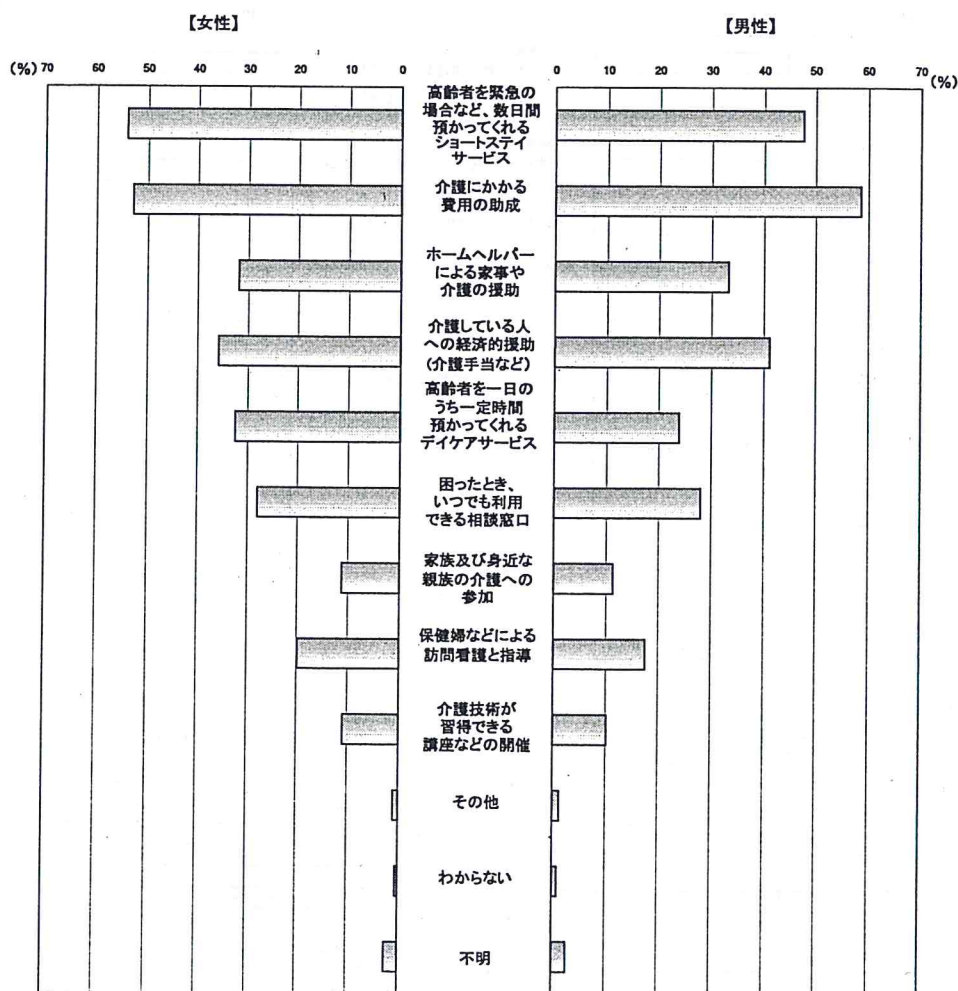
## 家庭での高齢者介護の負担を軽くするために必要なこと（3肢選択）

問17 家庭での高齢者介護の負担を軽くするためにはどのようなことが必要だと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

### 男女・年代別集計

- ・女性で「高齢者を緊急の場合など、数日間預かってくれるショートステイサービス」「高齢者を一日のうち一定時間預かってくれるデイケアサービス」が比較的高めである。
- ・男性で「介護にかかる費用の助成」「介護している人への経済的援助（介護手当など）」が比較的高めである。

『介護の主たる担い手である女性が直接的な介護サービスを望んでいるのに対して、男性は間接的な援助を求める傾向がある』



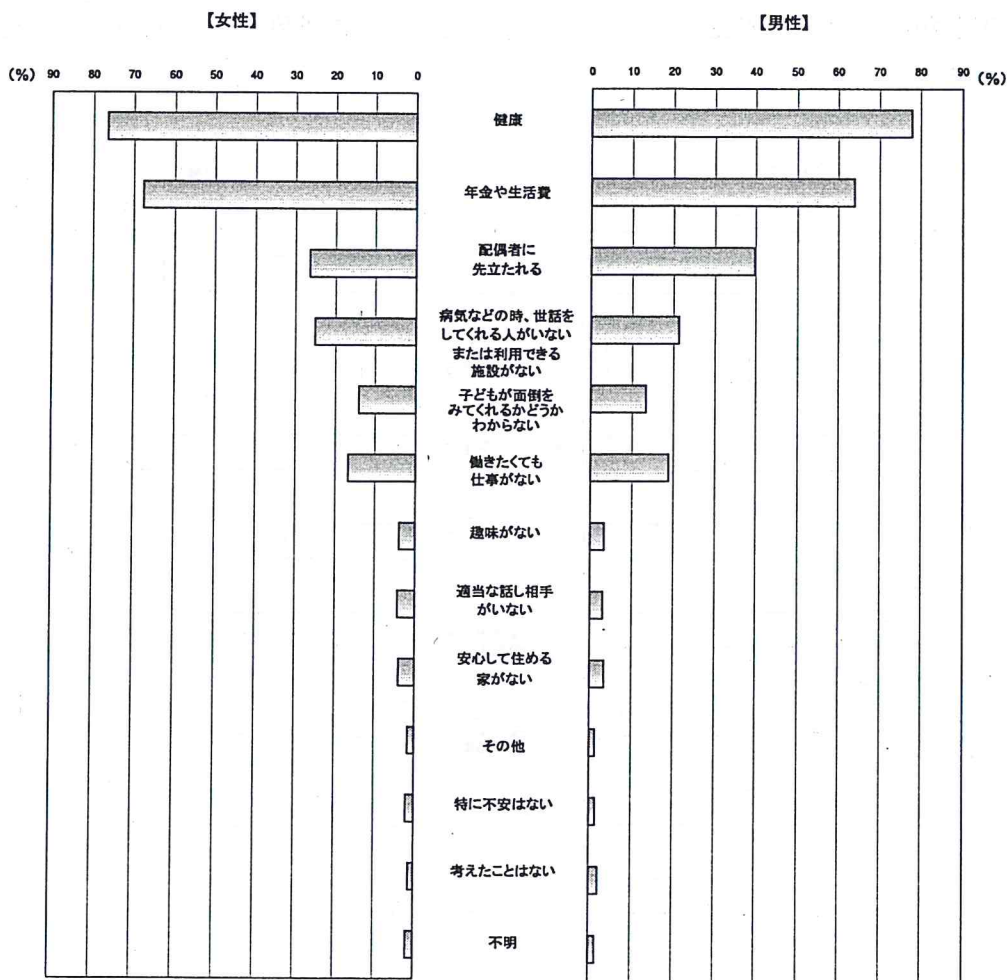
## 高齢期について不安に思うこと（3肢選択）

問20 あなたは、自分の高齢期について不安に思うことはどのようなことですか。次の中から3つまで選んでください。

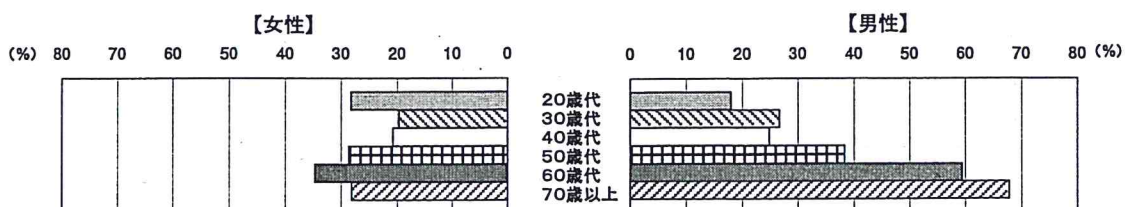
### 男女・年代別集計

- ・「配偶者に先立たれる」が「60歳代」以上の男性で非常に高い割合となっており、高齢期の男性が配偶者（妻）の存在を重要視していることがわかる。

『配偶者に対する依存度は女性より男性が非常に強いことがうかがわれ、生活的自立が高齢期の不安を解消する要因の1つともいえる』



### 「配偶者に先立たれる」について(男女・年代別集計)



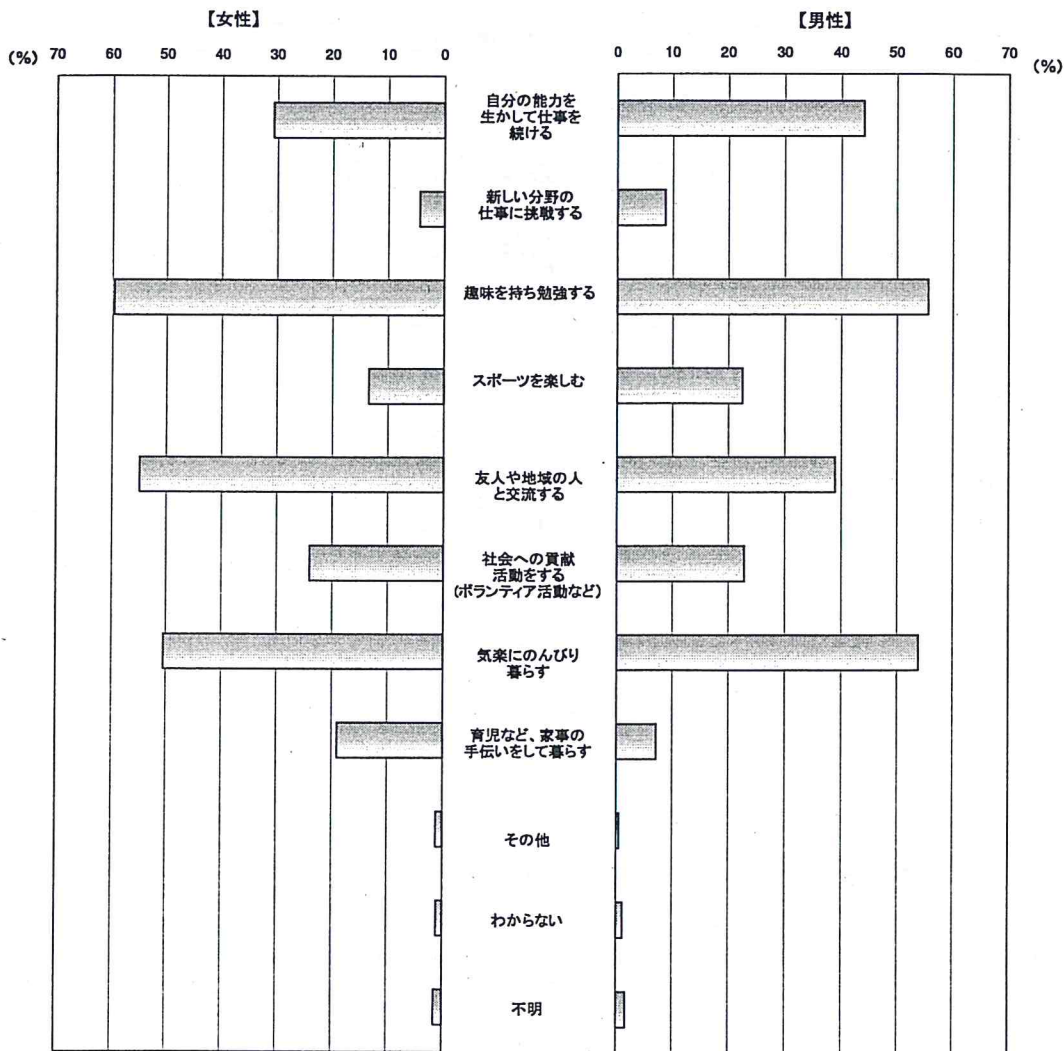
## 望ましい高齢期の生き方（3肢選択）

問22 あなたにとってご自分の望ましい高齢期の生き方とはどんなことですか。次の中から3つまで選んでください。

### 男女・年代別集計

・特に「50歳代」において、男性では「自分の能力を生かして仕事を続ける」が高い傾向にあり、同じく女性では「育児など、家事の手伝いをして暮らす」が高い傾向にある。

『男性で「自分の能力を生かして仕事を続ける」や「新しい分野の仕事に挑戦する」が高めとなっている一方、女性で「友人や地域の人と交流する」「育児など、家事の手伝いをして暮らす」が高めとなっており、将来の生き方にも従来の性別役割分担の意識が影響しているといえる』



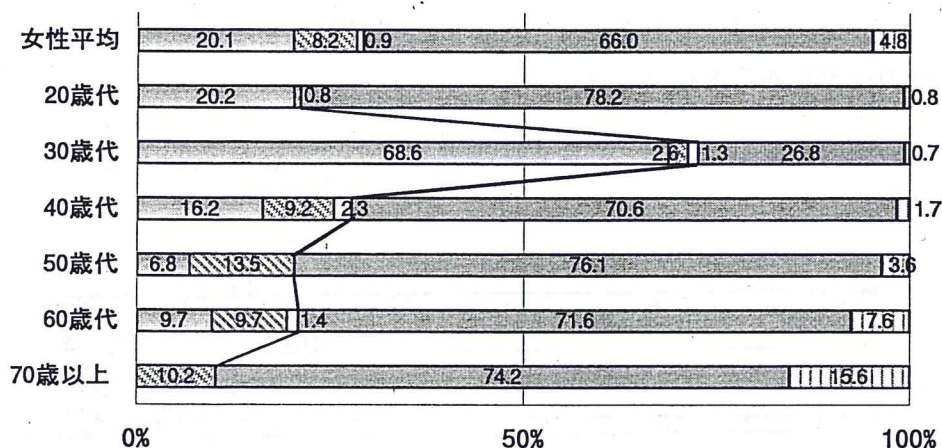
## 現在、育児、介護をしているか

問23 あなたは現在、育児、介護をしていますか。次の中から1つだけ選んでください。

### 男女・年代別集計

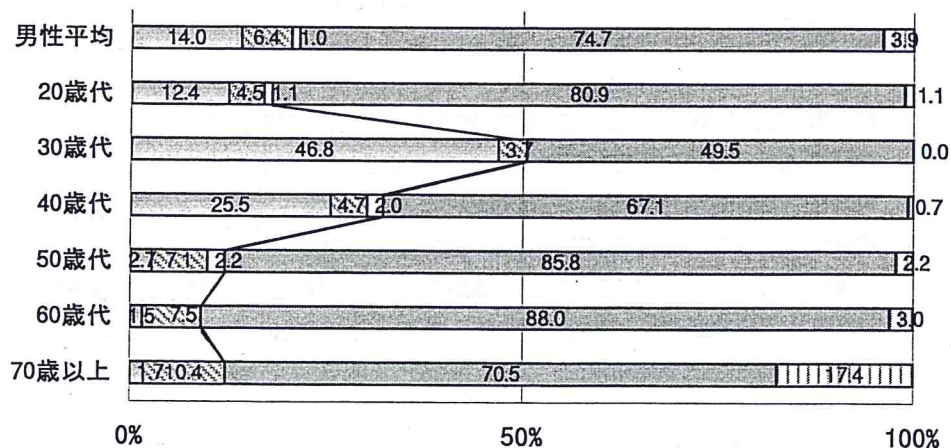
- ・育児、介護ともに女性でポイントが高く、性別役割分担意識が実態となって表れている。
- ・育児は女性は「20～30歳代」で、男性は「30～40歳代」で高めとなっている。
- ・「介護をしている」は女性は「50歳代」、男性は「70歳代」で最も高い。「50歳代」という年代で多い親の介護は、比較的女性に負担がかかっていると推測される。

#### 【女性】



□育児をしている □介護をしている □育児と介護の両方をしている □育児も介護もしていない □不明

#### 【男性】



□育児をしている □介護をしている □育児と介護の両方をしている □育児も介護もしていない □不明

# 育児休業、介護休業制度を利用するか

問25 働く人は、男女を問わず育児や介護のために育児・介護休業を取ることができません。あなたが、家族の育児または介護をしなければならなくなった場合、この制度を利用しますか。次の中からそれぞれ1つだけ選んでください（現在、事業所等に勤務されていない方もお答えください）。

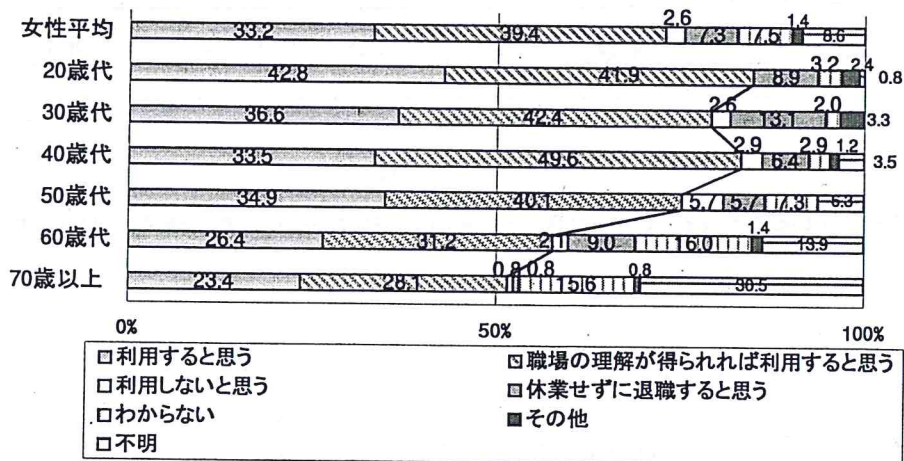
## 【育児休業制度について】

### □男女・年代別集計

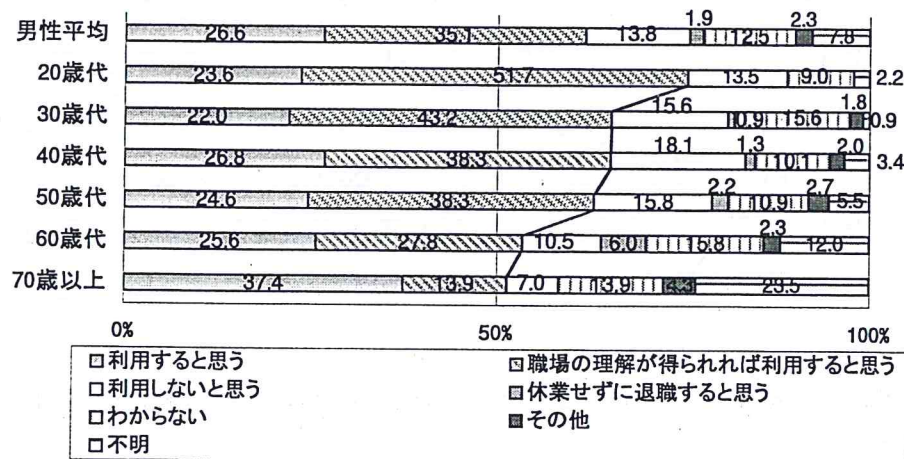
- ・女性で「利用すると思う」「職場の理解が得られれば利用すると思う」「休業せずに退職すると思う」、男性で「利用しないと思う」「わからない」が高い。
- ・女性についてみると、「20歳代」女性は「職場の理解が得られれば利用すると思う」よりも「利用すると思う」が高い。また、「30歳代」女性で「退職すると思う」が13.1%と他の年代と比較して高い割合となっている。今後の育児の際に休暇取得を希望する「20歳代」と、退職せざるを得ない、または退職したと予想される「30歳代」との間に意見の相違があると推測される。

『育児休業の利用、または退職して育児に専念するのは女性が多く、性別役割分担意識を反映している』

### 【女性】



### 【男性】



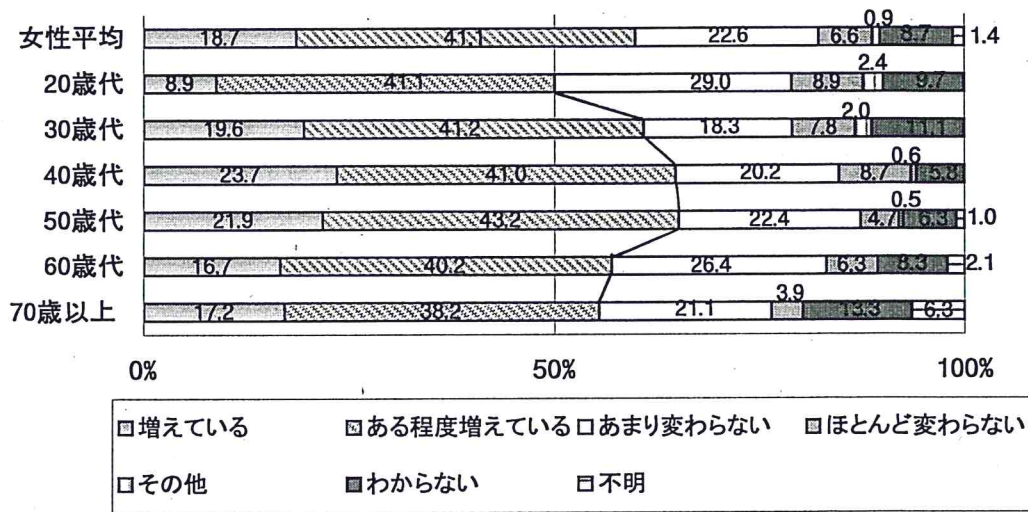
# 10年前に比べ家庭を重視する男性の割合は増えたか

問27 10年前に比べて、家庭を重視する男性の割合が増えていると思いますか、それとも変わらないと思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

## 男女・年代別集計

- ・男女とも「ある程度増えている」の割合が最も高いが、女性は次いで「あまり変わらない」となっているのに対して、男性は次いで「増えている」となっており、女性の方でやや否定的といえよう。
- ・年代別でみると、「増えている」は「50歳代」男性で突出して高い割合となっている。

### 【女性】



### 【男性】

